



# 第17回Wリーグ プレーオフ・ファイナル 第3戦 会見要旨



## JX-ENEOS サンフラワーズ

(2勝1敗)

### ■佐藤 清美 ヘッドコーチ

昨日のゲームで3ポイントを19本決められてしまいましたので、今日はそれを引きずらないという思いで臨みました。1Qと3Qに何本か入れられましたが、このような形で勝てたということは次につながります。

(3ポイント対策が奏功したのは、インサイドの2人(渡嘉敷、間宮)の高さへの信頼があったからか)もちろん相手に切り込まれた時はインサイドの2人がブロックしてくれますが、やはりアウトサイドの3人が絶対に打たせないという強い気持ちでプレッシャーをかけてドライブに行かせるということで仕事をしてくれたと思います。

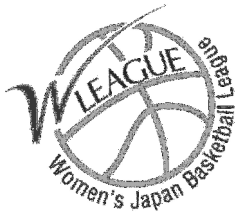
(序盤リードをされていた場面で対策を変えたところは?)対策は特に変えていませんが、相手の3ポイントが入った後のオフェンスが遅くなっていたところを注意しました。入れられてもすぐに攻めること、それを徹底し、選手たちが良いプレーをしてくれたと思います。

### ■#0 吉田 亜沙美 選手

今日はしっかり全員が強い気持ちを持って相手に立ち向かうことができました。ディフェンスからブレイクというアップテンポな展開に持ち込めたことが勝因だったと思います。

### ■#11 岡本 彩也花 選手

昨日の試合は自分たちがやらなければならない、走ること、ディフェンス、リバウンドというところを相手にやられてしまいました。今日はディフェンスがよく、プレッシャーをかけて、全員でリバウンドを取る、それをできたのが勝因だと思います。



# 第17回Wリーグ プレーオフ・ファイナル 第3戦 会見要旨



## 富士通レッドウェーブ (1勝2敗)

### ■BT テーブス ヘッドコーチ

今日は試合の入りがよく、良い試合ができたと思います。選手みんなの努力が現れた試合です。全体的に富士通ペースのバスケットができたものの、第2Qの終わりごろからそれができなくなり、フリースタイルのバスケットになってしまいました。全体的にはよかったのですが、敗因はリバウンドをコントロールできなかったこと。特に第4Qになって渡嘉敷選手にオフェンスリバウンド数々取られてしまい、セカンドチャンスを与えてしまいました。また、3ポイントに頼り過ぎたところがあり、もっとペイントエリアで得点を取りたかったです。間宮選手、渡嘉敷選手がいる中でペイントエリアでの勝負は難しいですが、そこで違った形で得点を挙げることは可能だと思います。

(第4戦に向けて)今日の試合のように攻め気を持って向かえば戦えると思います。負けることは考えていません。

### ■#1 三谷 藍 選手

出だしは良いリズムで自分たちのペースでしたが、だんだんボールが動かなくなり、リズムが悪くなってしまいました。また、渡嘉敷選手にリバウンドを含めもう少し抑えていかないといけないと思います。

(相手の3ポイント対策について)昨日よりもディフェンスの間合いが詰まっていたのでチェックが早かったのですが、キャッチ&シュートができませんでしたが、そこはズレを作って対応はしましたが、プレッシャーは強かったと思います。

### ■#10 町田 瑠唯 選手

同じ答えになりますが、出だしは良かったと思います。ただ、リバウンドを取られ過ぎたので、もっと全員で行くべきだったと思います。途中、ボールが回らず、パスが外だけで動いてしまいました。ペイントヘアタックする動きをもっと増やさなければいけないと思います。自分の得点も少なかったため、そこも反省点です。